

Dr. Guts 北垣の体当たり臨床実践塾 失敗例・成功例に学ぶ「外来診療の徹底攻略」

日時：平成24年3月17日（土）16：00～19：00

講師：北垣 毅 花見川中央クリニック 院長 場所：インプリメント セミナールーム

聖路加国際病院の目の前にありますインプリメントのセミナールームにおきまして、3月17日土曜日の16時より「本音の家庭医Dr. Guts」こと花見川中央クリニック院長の北垣毅先生を講師に迎え、失敗例・成功例に学ぶ「外来診療の徹底攻略」をテーマにMHS医学臨床セミナーを開催いたしました。

今年の目標 泣かせず笑わせる医療！

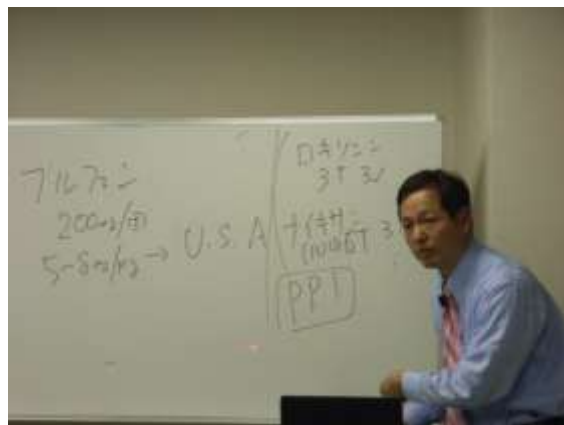
昨年の3月11日に起きた震災の影響により1か月遅れでスタートしましたMHS医学臨床セミナーですが、第1回目は4月16日（土）北垣先生の「痛みと救急を斬る！」でした。北垣先生には1年間で4回のシリーズをお願いし、今回は最終回の4回目ということもあり、米国で家庭医療の研修を終え、亀田総合病院総合診療部医長、東川口病院総合診療科部長を経て現在のクリニック院長として日米の病院・クリニックでの外来診療の経験を踏まえた上での「外来診療の徹底攻略」について話をいただきました。

北垣先生は「家庭医」として小児からお年寄りまで年齢性別を問わず来る患者をすべて診ることをうたって診療をされております。その中でいかに患者さんに満足してもらうか、喜んでもらうかを日々工夫し、それらを余すことなく披露してくださいました。

過去のセミナーでも何度か触れていただきましたが看護師さんを活用しての「サンドイッチ医療」では患者さんに不利益でない血糖値や酸素飽和度の測定、皮膚の写真やバイタル、既往歴・家族歴・健診歴などの医療面接、診療後の説明や質問など医師でなくてもできる事は任せることにより、患者さん1人あたりの時間を長く取ることができます。

実際の診療ノウハウでは、インフルエンザの迅速検査では感度が62%とマイナス結果でも約4割がインフルエンザ患者です。そこでの注意点とともにインフルエンザと診断した後の過ごし方を伝えてあげることの大切さを話していただきました。

一時的な高血圧の患者さんが来られた場合の対策のうち、140/90以上の妊婦さんは妊娠中毒症の可能性があるので直ぐ産婦人科を紹介が必要とのこと。「頭痛の鑑別のキモ」では側頭動脈炎は失明の可能性があり注意が必要であること。失敗例として右頭半分に痛みと目のかすみがある患者さんが脳外科でCTをとっても異常がなかったものの録内症であった事例を紹介し、実際眼を見れば診断がついた「知っていたら分かったのに」という事例を挙げて紹介してくれました。またステロイドの服薬量などの説明では参加者の先生方より多くの質問が飛んでいました。



薬の処方について語るDr. Guts北垣先生

また最初の心電図で心筋梗塞の発見は4割程度であり、どうすべきか。耳から臍の間の痛みは心臓の放散痛の可能性が多い。過換気患者さんに紙袋は間違い……など多くの事例を挙げて失敗例・成功例からの外来診療攻略を説明くださいました。